

ABVd【血液】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		アピチ注+デキソ注	副作用（吐き気）を予防するお薬です。
2		トピルビシ	治療のお薬です。約3分かけて注射します。
3		イクザール注	治療のお薬です。約3分かけて注射します。
4		ブレ注	治療のお薬です。約30分かけて点滴します。
5		ダカバジン注	治療のお薬です。約1時間かけて点滴します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		イメトカ°ル125mg	副作用（吐き気）を予防するお薬です。点滴開始1時間前に服用します。
2		イメトカ°ル80mg	副作用（吐き気）を防止するお薬です。 2日目(化療翌日)から服用し飲みきってください。
3		デカ°錠 0.5mg	副作用(吐き気)を予防します。 2日目(化療翌日)から服用し飲みきってください。

投与スケジュール

薬品名	日数																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
トキリスン塩酸塩注射用	↓														↓														
イクガル注	↓														↓														
ブレオ	↓														↓														
ダカバジン注	↓														↓														

1コース：28日間
投与間隔：2週間に1回(1.15日目)

ABVd療法【血液】

よく起こる副作用

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日に減少します

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：38℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなる場合がありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで

※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

★脱毛

発生時期 治療開始日から2～3週間後に始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

症状 徐々に抜け毛が多くなり、2ヶ月以内でほぼ抜けてしまいます。場合によりまつ毛や体毛も抜けることがあります。

対処法 ○今のところ有効な防止策はありません。髪を短くカットされておいた方がよいでしょう。
○市販のウィッグやバンダナ、帽子などで、おしゃれを楽しむ気持ちをお持ちいただけたらと考えます。（ウィッグに関する資料については、看護師にご相談ください。）
○化学療法中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けて下さい。

★尿の着色

★尿の着色

発生時期 薬剤投与日～2日目位まで

症状 ドキソルビシン注の赤い色が尿に出ることがあります。

対処法 通常2日以内に元にもどります。ただし痛みをともなう時はすぐ医師や看護師、または薬剤師に相談して下さい。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★静脈炎

発生時期 薬剤投与開始時～数日

症状 薬剤が投与されている血管にそって痛み、熱感、腫れ、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○注射中だけでなく、しばらくしてから症状があらわれることもあります。針を刺した部分に違和感を感じたら、直ぐにお知らせください。

★間質性肺炎・肺線維症

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 発熱、から咳、呼吸困難(息苦しい)、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち(風邪のような症状)から治療する必要があります。
○上記の症状があらわれたときはすぐに医師、看護師、または薬剤師にお知らせください。

★血管外漏出

発生時期 薬剤投与中～数日後

症状 注射をしている時に血管に入っていた針先が途中で血管の外にずれてしまい、薬剤が血管の外にもれることで、針が入っている部分を中心に、皮膚がはれ、赤みを帯びたり痛みを生じたりします。薬剤によっては、初めは軽い痛みでも、徐々に痛みが増し数日後には激痛を伴う水疱に増悪する場合があります。

対処法 ○注射がもれた場合には速い対処が必要となりますので、針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みや発赤などありましたら、すぐにお知らせください。
○針を刺している腕を動かさないようにしましょう。
○看護師も細心の注意をはらって血管外に薬がもれていないかを観察しますが、ご自身でも異常がないか観察することが大切です。
○帰宅したあとに針をさした部分に痛みや腫れが現われた場合にも、病院に連絡してください。

★心毒性(心筋障害、心不全)

発生時期 薬剤投与日から1～数ヵ月後以内
※まれにそれ以降にも起こる場合があります。

症状 手や足首のむくみ、息切れ、動悸、胸の痛みなどの症状があらわれることがあります。

対処法 ○上記の症状が出た時はすぐに医師に連絡し、指示に従ってください。

★肝障害

症状 食欲不振、全身倦怠感、悪心・嘔吐、腹部膨満感、黄疸などがみられることがあります。

対処法 ○症状があらわれた場合にはすぐに医師に申し出てください。

その他の副作用

★その他

症 状	便秘、倦怠感、色素沈着等がおこることがあります
対 処 法	必要に応じて対症療法を行ないます

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

